兵庫県のカミキリムシ研究史(1)

高　橋　寿　郎

まえがき

カミキリムシ（*Cerambycidae*）は天牛とも記される。髪の毛を大あごにもっていくとすぐに切ってしまうところからつけられたと説明した文献もある（日高，1982)。

触角は長くなかなか格好が良いので愛好者が多い。幼虫はテッポウムシともいわれ成虫，幼虫ともに植食性で農林業の大害虫としても知られている。

兵庫県のカミキリムシは日本のカミキリムシの画期的研究の BATES の論文の中にも多くふくまれていて，日本のカミキリムシの研究が始まったと同時に兵庫県（神戸）のカミキリムシの研究も始まったことになる。

戦前から小林桂助，関　公一等が六甲山系を中心に研究・調査をされ，関　公一は兵庫県のカミキリムシ100種をまとめて発表した（1941)。戦後，筆者も本誌上に兵庫県のカミキリムシをまとめて発表し，203種を記録した（1961, 1964)。辻　啓介は兵庫県のカミキリムシを221種として，そのカミキリムシ相の解説をした（1972)。その他にも多くの愛好者が調査，採集をされて記録の集積もあるが兵庫県全般のまとめというものは上記以外ないように思う。

1994年5月現在，筆者の手許に集まった兵庫県のカミキリムシの記録は295種（種名未確定2種を含む）あり，約50年にわたる記録の集積は相当の量となっている。(ちなみに日本産カミキリムシの総数は日本産昆虫総目録，I．1989によると898種，うち本州産は409種である。)そろそろ兵庫県のカミキリムシとしてまとめておかなくてはいけないと考え，今回の発表に至った。

兵庫県産カミキリムシに関しての研究論文，報文は大変多い。それらを全部眺めていくことは相当の量となり大変である。ここでは次の観点でその研究の経緯を眺めてみることにする。

1．兵庫県産のカミキリムシで記載された論文。

2．兵庫県下全域，特定地域のカミキリムシ相をまとめた報文。それ以外の県産カミキリムシについての文献類は筆者が別途まとめ発表している「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」(1975, 1981, 1984, 1993, 1830篇収録)を見て頂きたい。

本文を草するにあたり，多くの方々のご援助，ご指導を頂いている。改めて芳名を記さないが厚くお礼申し上げる。

研究史

1873. BATES, H. W. On the Longicorn Coleptera from Japan.

Ann, Mag.Nat. Hist. (4) xii: 148-156, 193-201, 308-318, 380-390.

G. LEWIS の長崎，大阪，兵庫で採集した標本に基いて日本産カミキリムシ科について，まとめた論文で多数の新種記載がある。これまでに日本産カミキリムシについての論文はあっても，これ程多数の種をふくむ研究論文が発表されたのは初めてのことであり，まさに日本のカミキリムシ相にとっての画期的な論文である。その中に兵庫県からの記録も多く含んでいることは兵庫県のカミキリムシ相の調査が日本のカミキリムシ相の調査と同じ時期に始まったものとして，その意義は大である。

この論文で兵庫県産として記録されたカミキリムシは30種あり，その内23新種が記載されている。この新種記載種のみここに掲げる（現在の知見で学名の変わっているものはそのように記しておく。全部 BATES の記載であるから命名者名は省略)。

p．153　*Ceresium holophaeum* ヨコヤマヒメカミキリ Hiogo, three examples apparently males.

p．154　*Stenodryas clavigera* アメイロカミキリ, Hiogo.

p．155　*Distenia Japonica*=*D. gnacilis* BLESSING ホソカミキリ. Maiyasan, Hiogo, many examples, found at night runnig over fin trees.

p．197　*Callichroma* (*Chkirudilum*) *tenuatum*=*Chloridolum viride* (THOMSON) ミドリカミキリ. Kobe, several examples; also taken by Mr. FORTUNE on the island of Nipon.

p．199　*Clytanthus muscosus*=*Chlorophorus muscosa* フタオビミドリトラカミキリ Hiogo, three examples.

p．308　*Echthistatus gibber*=*Parechthistatus* セダカコオブヤハズカミキリ Maiyasan and Kawachi, in September.

p. 309 *Monohammus fraudator*=*Acalolepta fraudatrix* (BATES) ビロウドカミキリ Hiogo. common.

p. 310 *Monohammus sejunctus*=*Acalolepta* ニセビロウドカミキリ Hiogo common.

p. 313 *Mesosa longipennis* ナガゴマフカミキリ. Hiogo. several examples.

Rhodopis Lewisii セミスジコブヒゲナガカミキリ. Hiogo. many examples.

p. 314 *Aelana furcata*=*Niphona* ハイイロヤハズカミキリ. Hiogo, on bambo fenices: larvae feed in the interior of the stemes. Also I. of Formosa.

p. 315 *Praonetha jugosa*=*Pterolophia* ナカジロサビカミキリ. Hiogo.

p. 316 *Praonetha rigida*=*Pterolaphia granulata* (MOTSCHULSKY) アトモンサビカミキリ Hiogo.

p. 318 *Sybra ordinata* アヤモンチビカミキリ Hiogo, on dead Cissus-stems.

Sybra cribrella=*Neosybra* ヒメアヤモンチビカミキリ Moon-temple, Kobe.

p. 381 *Microlera ptinoides* ヒシカミキリ Hiogo, on dead branches of Aegle sopiaria. *atimura zaphnica* コブスジサビカミキリ Hiogo, many examples.

p. 382 *Pogonocherus seminiveus* ネジロカミキリ Hiogo.

p. 383 *Smermus* (?) *bimaculatus*=*Cleptometops* ハスオビヒゲナガカミキリ Maiyasan, rare.

p. 384 *Leiopus guttatus* ナガバヤシモモブトカミキリ Hiogo, two examples.

p. 386 *Asperda rufipes* キクスイモドキカミキリ Hiogo.

p. 387 *Glenea ocelota*=*Eutetrapha* ヤツメカミキリ Hiogo, many examples.

p. 390 *Oberea marginella*=*Nupserha* ヘリグロリンゴカミキリ many examples.

なお文中 *Erythrus congruus* PASCOE ムネコブウスバベニカミキリを兵庫から 1 ex. 得たと記録されているが，現在日本に産するかどうか疑問種（台湾には産する）なので取り上げない。

1875. E.v. HAROLD. Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleopteren.

Abhandle. Nat. Ver. Bremen IV: 283-296.

LENZ, TUISON は商人として1874～1880年の間，神戸に在留した。その間に甲虫類を採集し，その採集品を基にして HAROLD は2編の論文を発表しており，本報文はその第1報である。

本論文には47種の甲虫が記録されており，うち8種は本論文で新種として発表されたものである。産地は明確に記録されていないが神戸産（Hiogo）のものが大部分と考えられる。ただ若干問題のある種もある。カミキリムシは9種記録されており，うち1種が新種記載である。

p. 295. 38. *Neocerambyx Batesi* HAROLD=*Aeolesthes chrysothris* (BATES) キマダラヤマカミキリ

1876. E.v. HAROLD. Bericht über eine Sendung Coleopteren aus Hiogo.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V:115-135.

前報文の第2報で表題に Hiogo〔神戸〕とはっきり産地を示している。カミキリムシは3種記録されているが，普通種ばかりである。

1879. HEYDEN, L. Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.

Deut. Ent. Zeit., XXIII, Heft. II: 321-365.

本編は Prof. Dr. REIN Johan J. の日本での採集品のうち甲虫類のみを同定した報文である。Dr. REIN は明治8，9年の2年間，東京ドイツ大使館の顧問として，日本に滞在し，その間漆器や陶磁器，製紙等について調査する一方，前後6回にわたり日本の本州，四国，九州を丹念に歩いて昆虫各目の採集をした。6回の採集で235日を費やしている。そのうち2回神戸での採集があり，いづれも時期が良く，6～8月の昆虫最盛期を神戸で採集したので，この報文に報ぜられた日本産甲虫類152種のうち兵庫県からの記録は66種で一番多く記録している。もっとも LEWIS 等の記録も含んでいる。ただ残念なことにカミキリムシについてはリンゴカミキリ1種しか記録していないのが不思議である。多いのはコガネムシ，ゴミムシ類である。

1884. BATES, H.W. Longicorn Beetles of Japan. Additions chiefly from the later Collections of Mr. George Lewis, and notes on the Synonymy, Distribution, and Habites of the previously know Species.

Jour. Linn. Soc. Zool. London, XVIII: 205-262, pl, I-II.

この論文は G.LEWIS が1880～1881にわたっての再来日で彼および彼の指導した日本人の採集者によって採集

された標本を基礎としたものである。1873年の論文に129種を追加した。兵庫県からは4種しか記録されているにすぎない（うち3新種)。それは今回の採集の場所が信州，日光，東北地方，北海道であることから当然である。新種3種を次に記録しておく。

P．237．*Echthistatus furciferus* BATES＝*Mesechthistatus furciferus* マヤサンコブヤハズカミキリ Maiyasan

P．243. *Rhodopis Lewissi* BATES＝*Rhodopina* セミスジコブヒゲナガカミキリ Hiogo.

P．244. *Mesossa hirsuta* BATESU カタシロゴマフカミキリ Kobe.

1887. SCHÖNFELDTI, H:v. Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe der bezüglichen.

Beschreibungan und der sicher bekannten Fundonte

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde, 40:31-204.

今までの日本から記録された甲虫類のリストで原記載名も一緒に示してある。この目録での新種記載というのはない。記録された種が現在の知見では学名の変わらなくてはいけないもの，整理してシノニムで消えるもの等もあるが，これをここで検討することはやめる（それぞれの原記載論文の説明の所を参照)。

一応，Kobe, Hiogo の産地の書かれているものは全部で466種あり，カミキリムシ科は50種が記録されている。

1901. 大上宇一．播磨産天牛科

動物学雑誌　13(155):289-295.

播磨産カミキリムシとして28種記録されている。学名のあるもの，属名のみのもの，和名だけのものといろいろである。標本が現存していないので，これだけで的確に種名を確定することは難しいが，現在のどれにあたるかわかる種ももちろんある。

日本人による兵庫県のカミキリムシについての最初の報文であり，大変貴重なものであるが，何分にも種の判定がほとんどできていないのが残念である。

1902. 大上宇一．播磨産甲虫類報知.

動物学雑誌　14(167):346-347.

播磨産カミキリ6種が記録されている。和名のみ（属名のみ記入のもの4種）であり，ヒメトラカミキリとかハンノキカミキリのようにはっきりした種もあれば，やや同定が難しい種もある。

1907. 大上宇一．播磨産甲虫類（承前）

昆虫世界　11(117):200-201.

播磨産カミキリムシとして158-198迄41種記録されている。今回は和名と学名がついているので大体現在のどの種であるのか判定できる。例えばクリスヒ *Phytoecia simulans* BATES とあるのは学名からしてニセシラホシカミキリ *Pareutetrapha simulans* (BATES, 1873) とおもわれる。宍粟郡行者山から1頭だけ得た奇品とある。ホタルカミキリ，ハンノキカミキリ，ヨツボシカミキリの図が入っている。

1932. 小林賢三．大阪付近の天牛.

関西昆虫学会会報（3):73-79.

竹内吉蔵が“京阪神地方の天牛”と題して発表した報文（関西昆虫学会会報　№1:74-77, 1930. 48種記録. 神戸・兵庫産の記録はない）をも含めた大阪付近の天牛である。収録範囲として，東は伊吹山から西は神戸，北は大阪北部の箕面や妙見，また南は奈良，高野山，吉野くらいまでをも含む広義の“大阪付近”産として79種を記録している。うち神戸，六甲山とはっきり記録している種が36種ある。

特に珍しい種はないようであるがクビアカフトカミキリ，ブドウトラカミキリ，セジロカミキリ（オオシロカミキリ)，シナノクロフカミキリ，ヤツメカミキリ，カツラカミキリ（ラミーカミキリ）がすべて六甲から記録されているのは注意しなくてはならない。また *Strangalia thoracia* CRENTE セアカハナカミキリとして神戸，六甲の記録がある。クロオオハナカミキリ *Macroleptura thoracia* のことであるのか *Leptura aethiops dimorpha* BATES クロハナカミキリのことであるのか，そのあたりはよくわからない。

Chlorophorus motschulskyi GANGLBAUER クロトラカミキリ　六甲各地に普通とあるが真にこの種であるかどうかはっきりわからない。(この学名であると現在スジボソクロトラカミキリになる。この種は本州に産しないので和名からして *C. diadema* MOTSCHULSKY になるかと思われる。）その他学名は現在では変わっているものがある。

1933. 関　公一．御影町付近産の甲虫目録（その二).

昆虫界　1(4):422-426.

御影町（神戸市）を中心として六甲山，摩耶山，芦屋等を含むと（その一）の始めに記している。カミキリムシ科60種が記録されている目録で和名と学名のみで採集データ等が全くついていない。採集者名のついた種もあり，コメントがついたものにセジロカミキリ（オオシロカミキリ）(沢野君の友人の採集せしものにて極めて稀

とある)。ネジロカミキリも稀とある。ヒシカミキリ(矢野氏が六甲山で採集した珍種とある。種名が *ptinaides* と間違っている *ptinoides* にしなくては,この種は現在神戸市内で非常に多く普通に見られるカミキリムシである)。学名は現在では変わるものを含んでいる。

1935. GRESSITT, J.I. Neue Japanese Longicorn Beetles (Coleoptera: Cerambycidae). Kontyu 9(4): 166-179.

日本産カミキリムシ科の新種記載であるが, p.171-172 に Harima 産 (V − 1916), *Phymatodes quadrimaculatus* GREESSITT ヨツボシヒラタカミキリ 新種記載がある。

1935. 関 公一. 京阪神を中心とした天牛相. 昆虫界 3(18•19):369-378.

123種のカミキリムシが記録されている。収録範囲が京都, 大阪府, 兵庫県と非常に広いにもかかわらず, ほとんどの種に採集データがない。これでは利用できない。関の一連の報告は, このようにあまりデータをつけてないものが多い。現在の知見から学名の変わるものもある。

1935. 関 公一. 末松為太郎. ダイセンカミキリ摩耶山に産す。昆虫世界 39(458):392-393.

ダイセンカミキリ *Glenea daisenensis* MATSUSHITA の採集記録, 現在学名は *Parcutetrapha simulans* BATES ニセシラホシカミキリ

1936. 関 公一. 三種のカミキリムシに就いて 昆虫界 4(27):334-336.

サビカミキリ *Criocephalus rusticus* LINNÉ が六甲山ケーブル山上駅や阪急テント村で採集したとあるが, 採集データがない。現在 *Anthopalus* 属でムナクボカミキリといわれ県下で広く産する種である。

1938. 関 公一. ベーツカミキリとその産地に就いて. あきつ 1(3):100-102.

神戸裏山産の標本が図示されているが詳しい産地と採集月日が不明である。

1939. 関 公一. 日本産天牛の記 (II) 昆虫界 7(64):307-310.

この時点で台湾にのみ分布すると知られていたタカサゴシロカミキリが神戸市須磨区一の谷で得られているという記録がある。

1939. 関 公一. トゲヒゲヒメカミキリに就いて. 昆虫世界 43(504):233-234.

大林一夫が *Nisma japonica* OHBAYASHI トビヒゲヒメカミキリとして新種記載された種 (1936) は *Allotraeus asiaticus* SCHWARZER アジアトビイロカミキリのトシノニムになるとされた報文である。同時にこのアジアトビイロカミキリを西宮で採集した標本を有すると記録されている。この種は現在では *Nysima rufescens* PIC トゲヒゲヒメカミキリと扱われている。

1941. 関 公一. 兵庫県産の天牛科昆虫 昆虫界 9(89):447-456.

兵庫県産100種のカミキリムシが記録されている。中でタカサゴシロカミキリ本州亜種の記載がある (現在は亜種の取り扱いはしていない)。産地は出ているがデータはない。それと採集地に某地といった不明瞭な表現がある。現在の知見では学名の変更を要するものもある。

1941. 増田 猛. 橋本直也. 一中付近の昆虫. A5. 39p. (孔版. 單行本)

神戸一中 (現神戸高校) 付近産の蝶と甲虫の目録である (摩耶山麓一帯) 採集データはない。種によって多少のコメントはついている。カミキリムシは 53種 (p・21-25) 記録されている。現在の知見からすれば相当数の学名の変更などがある。

(以上で戦前の研究史は終わる)

(兵庫県甲虫相資料・300)